

第 33 回吉野ヶ里杯・第 29 回卑弥呼杯熱気球大会競技規程

Version2(2023. 12. 11)

セクション I-大会ディテール

- I. 1 本大会は、2023 吉野ヶ里ウィンターバルーンフェスタ「第 33 回吉野ヶ里杯・第 29 回卑弥呼杯熱気球大会」と称する。
- I. 2 本大会は、佐賀熱気球パイロット協会によって組織される。
- I. 3 本大会は、吉野ヶ里歴史公園及び周辺（吉野ヶ里町・神崎市・佐賀市）において行なわれる。
- I. 4 本大会は、2023 年 12 月 16 日土曜日から 12 月 17 日日曜日午前とする。
- I. 5 競技者の気球およびその機材は、大会の全期間中を通じて競技者の責任で管理しなければならない。大会にエントリーすることにより、競技者は自身への被害や競技者の機材の損害について、一切の責任追究をしないことに同意したものと見なされる。
- I. 6 各々の気球は、第三者からの損害請求に備えて、少なくとも CSL2 億円の第三者賠償責任保険を用意しなければならない。競技者は、競技者が使用する気球に、大会期間中有効である保険を用意していることを証明する書類を事前に提出しなければならない。
また、同乗者を搭乗させる予定がある場合には、競技者は同乗者の搭乗を担保する搭乗者保険を用意しなければならない。

セクション II-競技ディテール

- II. 1 競技地図は、国土地理院発行の地図に基づき特別に編集したものを使用する。Map Datum は「WGS84」で、1Km のグリッドが印刷され、UTM コーディネートに対応している。
- II. 2 競技外区域・競技禁止区域の詳細は、ゼネラルブリーフィングノートにおいて定義する。
- II. 3 **飛行上の特記事項**
飛行に際しては、佐賀エリアでのフライトにおける申し合わせ事項を遵守しなければならない。
なお、これらに違反した場合、その競技者は本大会から失格となる。
掲載場所 <http://www.sagaballoon.jp/information.html> 「各種情報」
- II. 4 共通ローンチエリアは、吉野ヶ里歴史公園内「市の広場」周辺を使用する。
- II. 5 **共通ローンチポイント (CLP) : 2866/8824 (WGS84)**
- II. 6 競技者は、地主の許可なく私有地で離着陸してはならない。
気球を回収するために私有地に進入する場合、競技者は少なくとも 15 分間地主を探すこと。
競技者は一般のアクセスや通行を妨げないようにする義務がある。
- II. 7 競技飛行中の競技区域内での最高高度は目達原 ACZ 内では 3000ft、佐賀 Area A では MSL4, 000ft、佐賀 Area C では MSL3, 000ft である。また佐賀 Area D では MSL3, 000ft である。競技区域に隣接して目達原 ACZ 内での飛行禁止区域及び Saga ACZ がある。
※佐賀エリアについてはバルーン離着陸管理システムの運用方法を遵守すること。
(Saga ACZ の出入については管理システムの操作に加えて空港への電話連絡が必要。)
本大会期間中、17:10 を公式日没時刻とする。17:10 以降の飛行は禁止する。
- II. 8 リコール手順:バルーン離着陸管理システムの「緊急一斉メール」を使用する。
- II. 9 競技者がゴールとして使用できるゴール一覧表は事前に電子データで配布する。
タスクデータに他の方法が定義されない限り、競技者は、その一覧表に記載された交差点を、競技者のゴールとして使用しなければならない。

セクション III-規定

- 1.1 大会の最後において、全競技者を対象とした採点において最も高い得点を得た競技チームを吉野ヶ里杯の勝者とする。また、**卑弥呼杯対象チームのみの採点において最も高い得点を得た競技チームを卑弥呼杯の勝者とする。**
但し、卑弥呼杯参加者が3チーム未満であった場合は、卑弥呼杯は不成立とする。
- 1.2 順位を決定するには最低1回の飛行で、少なくとも1回のタスクが行なわれなければならない。
- 2.1 本大会はチームエントリーとし、1チーム3名までとする。
- 2.2 本大会は、日本気球連盟が発行する熱気球操縦技能証を保持し佐賀エリアでのフライトにおける申し合わせ事項が遵守でき、かつPIC飛行時間25時間以上の者を対象とし、卑弥呼杯は、吉野ヶ里杯対象者の中での女性参加者がいるチームを対象とする。
- 3.1 大会に使用できる気球は佐賀空港登録気球のみとする。違反した場合、その競技者は失格となる。
- 4.1 競技運営に関し不満或いは異議申し立てのある競技者は、まず、競技委員長、副競技委員長、スコアラーまたはチーフデブリーファーに意見を述べなければならない。
- 4.2 大会最終日に発生した採点もしくはその他の事項に関する異議申し立ては、公式スコア掲示後から1時間以内に、競技委員長に提出されなければならない。
- 4.3 公式掲示板は、ブリーフィング会場入口とする。
- 5.1 競技者は、オブザーバレポート用紙に離着陸の場所及び時間、マーカー投下の時間及び場所、推定競技結果、地主に関する事、他の関係することを記載のうえ、署名しなければならない。
- 6.1 **競技者は、全てのPZ及び全ての競技外区域が、明確かつ正確に記載された競技地図をバスケットに搭載して飛行しなければならない。**
競技者は、航空交通管制の制限事項に関する十分な情報が競技地図に記載されていない限り、適切な航空管制図を携帯しなければならない。この規定に違反した競技者は、その競技の飛行を行なってはならない。また、飛行を行なった場合は、その競技者は失格となる。
- 7.1 競技委員長は、その競技の結果が公表される以前であれば安全上の理由によりタスクを無効とすることができる権限を有している。
- 7.2 全てのパイロット、その他役員は、ゼネラルブリーフィングに出席しなければならない。
- 7.3 タスクブリーフィングでチーム名もしくは競技者番号の点呼への応答により、競技者はタスクに参加できる。
- 7.4 タスクブリーフィングでは、競技データが口頭、文書または告知板により知らされる。
- 7.5 補足ブリーフィング時、競技者は自分自身で出向くか、または信頼できるクルーを出席させなければならない。
- 8.1 共通ローンチエリア (CLA) とは、全競技者が共通の区域から離陸することを求められたタスクの場合に用いられる。
- 8.2 共通ローンチポイント (CLP) とは、共通ローンチエリア内またはその近くにマークされた点で、個々の気球の離陸位置に関わらず、ここより全ての角度と距離の測定が行われる点をいう。
- 8.3 競技者が各自の個別ローンチエリアを選択するタスクでは、個別ローンチポイントは、熱気によるインフレーションを行う際のバスケットの位置とする。
- 8.4 競技者は、地主から許可を取得してからでないと、そこからの離陸を行なってはならない。この許可は、パイロットもしくは役員の出会ひのもとに取得されなければならない。違反した場合、最高500ポイントのコンペティションペナルティとなる。

- 8.5 インフレーションを行う全ての気球は、クィックリリース式のタイオフを使用しなければならない。
- 8.6 補足ブリーフィングを実施する場合は実施場所において車両のクラクション等の音を使用し、タスクキャンセルの場合は佐賀エリアの離着陸管理システムによる緊急一斉メールを使用する場合がある。
- 9.1 **競技者は、自気球のコースに他の気球がないと確信できない限り、1.5m/s (300ft/min) を越える速度での上昇を行ってはならない。**
- 9.2 必ずしも衝突の原因となる場合でなくとも、無謀な飛行（他の気球や地上の人々に不必要なリスクを発生させるようなあらゆる飛行など）には、最高1,000ポイントのコンペティションペナルティが課せられるか、もしくは、そのイベントから失格とされることがある。
- 9.3 離陸から最終着陸の完了までに、電力線・電話線・鉄道架線・その支柱もしくは構造物と重大な衝突をした競技者は、最高1000ポイントのコンペティションペナルティが課せられる。衝突に関しては無謀飛行に関する規定に従ってペナルティが追加して課せられることがある。
- 9.4 中間着陸においてP1を交代することができる。ただし、P1はエントリーパイロットに限る。また、卑弥呼杯対象チームが男性エントリーパイロットへ交代した時点で卑弥呼杯の対象外となる。
- 9.5 競技者は、同意のもとにクルーその他を同乗飛行させることができる。
- 9.6 飛行中、ハンドリングラインの使用ならびに地上の者の援助を受けることは、禁止されている。但し、全てのマーカーを投下し終え、そのタスクフライトのターゲット、ゴールならびにマーカーから100m以上離れた地点においての着陸の為の地上の者からの援助は認められる。
- 10.1 タスクデータで述べられない限り、ゴール/ターゲットもしくは競技者自身のマーカーから100m以内では、自由着陸(中間着陸含む)を行なってはならない
- 11.1 競技者が予定していたゴールが造成し直されたか動かされていた場合、100メートル以内にある最も近いゴールを目指さなければならない。もし、100メートル以内にそのゴールが存在しないか見当たらない場合、競技者はそのコーディネートの位置を目指さなければならない。このコーディネートは、そのフライトのその他のタスクのための計算や計測にも用いられる。
- 11.2 競技者がゴールの宣言を行う場合、**ゴール番号により宣言しなければならない。**
- 11.3 タスク種別によっては、ゴールの近くもしくは特定の地点に識別しやすいX形のターゲットが展開される。ターゲットが展開される場合、すべての計測はゴールでなく、ターゲットから行なわれる。
- 11.5 タスクブリーフィングでマーカー重力投下(GMD)が指定されていない限り、マーカーは手で投げることができる。
- 11.6 重力投下(GMD)にあたっては、バスケットに対していかなる水平方向の動きもマーカーに与えられてはならず、重力のみが、マーカーの投下に作用されなければならない。
- 11.7 もし、マーカーがロストになる以前に地上にて役員またはオブザーバーにより目撃されている場合で、マーカーが対地2,000ftより低いところから投下された証拠がある場合、競技者には、得られた証拠からの最も不利な解釈に基づいた推定結果が与えられる。その他の場合、競技者の採点上の位置は、(時間的に)次のマーカーの位置もしくは最終着陸地点のどちらか有利な方となる。
- 11.8 マーカーが発見されると信じる理由があり申告された場合、競技委員長もしくはスコアラーがこの時間制限の延長を許可する場合がある。
- 11.9 競技者は、マーカーが損傷したり、再使用できないようになり、ロストしたり、時間内に

返却されない場合、その対価を請求されることがある。

- 12.1 大会役員を故意に欺こうとしたり惑わすなど反スポーツ行為を行った競技者、他の競技者への故意の妨害、禁止された機器の使用、規定の重大な違反を繰り返した者などは、大会から失格となる。
- 12.2 距離ペナルティは、競技者の結果に距離違反の2倍を加算（又は減算）するものとする。
- 12.3 タスクポイントペナルティは、競技者のタスクポイントから減点され、ゼロを下まわることはない。コンペティションポイントペナルティは、同じくタスクポイントより減点されるが、マイナスになった場合、大会の得点合計より引き落とされる。
- 13.1 競技者は、各タスクの規定による時間及び距離ペナルティの調整後、結果に応じて順位が付けられる。競技者は、タスクごとに以下のグループに分類される。
- グループA** 結果が計測された、もしくはロストマーカーの規定により結果が推定された競技者。
- グループB** タスクを飛行したが結果の得られなかった競技者。公式3によるポイントもしくは公式2によるポイントの平均のうち、いずれか高い方のポイントを与えられる。
- グループC** 有効な離陸を行なわなかったか、タスクから失格となった競技者、0点とされる。
- 13.2 適切な公式によってポイントスコアを計算した後、競技者の獲得したポイントからペナルティポイントを減算して公表される。
- 13.3 最良の結果に対しては、ペナルティ調整前の段階で、1000ポイントが与えられる。
- 13.4 上位半数の結果は、1000ポイントから約500ポイントの間で、公式1を使用しその結果に応じて点が配分される。
- 13.5 下位半数の結果は公式2を使用し0から約500ポイントの間でランクの順位に従って点が配分される。
- 13.6 **公式1：（上位半数）**
$$1000 - [(1000 - SM) / (RM - W)] \times (R - W)$$
公式2：（下位半数）
$$1000 \times (P + 1 - L) / P$$
公式3：（グループBの競技者）
$$1000 \times [(P + 1 - A) / P] - 200$$

P = 大会参加の競技者数
M = P/2少数点以下を切り上げた整数とする（中間ランク）
R = 上位半数の競技者の結果（メートル等）
RM = 中間ランクの競技者の結果
L = 該当競技者のランク
W = 該当タスクの最良の結果
A = グループAの競技者の数
SM = 公式2による中間ランクの競技者の得たポイントスコア（四捨五入し整数としたもの）

13.7 タスクにおいて半数未満の競技者しか結果を得られない時、次の定義変更を行なう。
RM = グループAの最下位ランクの競技者の結果
SM = 四捨五入し整数とした公式2によるグループAの最下位ランク競技者の得たポイント
M = グループAの最下位の競技者

13.8 タスクにおいてどの競技者も結果を得られなければ、グループBのすべての競技者は、ペナルティを付加する前の時点で500ポイントを得る。

13.9 得点は、四捨五入を行なうことにより整数に丸められる。

13.10 精度は、以下の基準を適用する。

計測手段	精度	表示例 [m]
巻尺/測量	cm	1.23
GPS	1m	1234.00
地図上での計算	10m	1250.00

結果を得るために幾つかの方法を組み合わせる場合、最も精度の低い基準を適用する。

共通したコーディネートに対する位置がより正確な方法で決定できる場合、その方法の精度を適用する。GPSによる結果は、1mの精度で計算し、10m単位に四捨五入する。

13.11 100m以内ではGPS計測以外の通常の計測方法が使用される。GPSによる計測が通常の計測方法よりも正確であると信ずるに足る理由がある場合には、GPSによる計測結果を使用することができる。

13.12 大会の総合得点において、2人の競技者が同点の場合、最高得点と最低得点との間の開きの少ない方が、上位ランクとする。

14.1 パイロット・ディクレアード・ゴール(PDG)

14.1.1 競技者は、飛行前に自分で選択し宣言したゴールに向かってマーカーを投下する。

14.1.2 結果は、マークから最も近い有効な宣言をしたゴールまでの距離とする。最小距離を採用する。

14.2 ジャッジ・ディクレアード・ゴール(JDG)

14.2.1 競技者は、セットされたゴールに向かってマーカーを投下する。

14.2.2 結果は、マークと(ターゲット)ゴールまでの距離とする。最小距離を最良とする。

14.3 ヘジテーション・ワルツ(HWZ)

14.3.1 競技者は、セットされた複数のゴールの中から一つを選んでマーカーを投下する。

14.3.2 結果は、マークと最も近いゴール(ターゲット)までの距離とする。最小距離を最良とする。

14.4 フライ・イン(FIN)

14.4.1 競技者は自分で離陸地を探し、定められたゴールもしくはターゲットに向かってマーカーを投下する

14.4.2 結果は、マークとゴール(ターゲット)までの距離とする。最小距離を最良とする。

15.4.3 複数回飛行した場合でも、得点対象の飛行はそのうちの一回のみとする。競技着陸は、指定のオブザーバーに対して、可能な限り早い機会に宣言しなければならない。

14.5 フライ・オン(FON)

14.5.1 競技者は、飛行中に選択し宣言したゴールに向かってマーカーを投下する。

14.5.2 結果は、マークから最も近い有効な宣言したゴールまでの距離とする。最小距離を採用する。

14.5.3 競技者は、前のマーカーにフライ・オンのゴールを3桁のゴール番号により鮮明に記入しなければならない。前のマーカーが投下されない場合、そのマーカーにゴール宣言が行なわれていない場合や宣言できるゴールの数以上のゴールが記載されている場合には、競技者は結果を得られない。

14.6 ヘア・アンド・ハウズ(HNH)

14.6.1 競技者は、ヘア気球を追跡し、ヘア気球の着陸後、そのバスケットから2m以内の風上に設置されたターゲットに向かってマーカーを投下する。

14.6.2 結果は、マークからターゲットまでの距離とする。最小距離を最良とする。

14.7 ゴードン・ベネット・メモリアル(GBM)

14.7.1 競技者は、設定された採点区域内で、ゴールに可能な限り近いところにマーカーを投下する。

- 14.7.2 結果は、マークとゴール(もし設定されていればターゲット)の距離とする。最小距離を最良とする。
- 14.8 ミニマム・ディスタンス(MDT)**
 - 14.8.1 競技者は定められた最小時間飛行した後、CLPIに向かってマーカを投下する。
 - 14.8.2 結果は、マークからCLPの距離とする。最小距離を最良とする。
 - 14.8.3 最小時間の飛行の後、オブザーバーもしくは大会役員がマーカ投下を確認する場合、採点を得られたものとする。
- 14.9 ミニマム・ディスタンス・ダブル・ドロップ(MDD)**
 - 14.9.1 競技者は、異なる採点区域内に、二つのマーカをできる限り近接させて投下する。
 - 14.9.2 結果は、2つのマーカの距離とする。最小距離を最良とする。
 - 14.9.3 1つもしくは両方のマーカを採点区域の外に投下した競技者、もしくは両方のマーカを1つの採点区域に投下した競技者は、採点結果を得られない。
- 14.11 マキシマム・ディスタンス・ダブル・ドロップ(XDD)**
 - 14.11.1 競技者は、一つもしくは複数の採点区域内に、二つのマーカを可能な限り離して投下する。
 - 14.11.2 結果は、2つのマーカの距離とする。最大距離を最良とする。

以上